

**2022年3月期 第2四半期**

**(2021年4月~2021年9月)**

---

**決算説明会**

2021年11月12日

**1. 2022年3月期 第2四半期 決算概要**

**2. 2022年3月期 第2四半期 事業概況**

**3. 2022年3月期 業績見通し**

**4. 今後の展望**

- 5G対応スマートフォン・PCなどの需要や、DX・通信・データセンターへの投資など、先端半導体の旺盛な需要と半導体工場の設備投資が加速。
- 当社では、原燃料の高騰やロジスティクスの混乱があったものの、高付加価値製品等の増加により、前期実績や業績予想値に対し、**売上高・利益全てで増収・増益を達成**。
- 利益は**前年同期比1.8倍**、業績予想値に対し**2割以上の超過達成**。

	2021.3月期		2022.3月期 2Q実績値	前年同期比		業績予想比		
	(百万円)	2Q実績値		2Q業績予想値	増減額	増減率	増減額	達成率
売上高		※12,835	15,000	<b>15,710</b>	※+2,874	※+22.4%	+710	104.7%
営業利益		1,306	1,980	<b>2,369</b>	+1,062	<b>+81.3%</b>	+389	<b>119.7%</b>
経常利益		1,277	1,900	<b>2,360</b>	+1,082	+84.7%	+460	124.2%
四半期純利益		865	1,300	<b>1,625</b>	+759	<b>+87.8%</b>	+325	<b>125.0%</b>
1株当たり四半期純利益		109.04円	163.79	<b>204.79円</b>				
1株当たり中間配当金		10.00円	15.00円	<b>15.00円</b>				
為替レート (USD)		¥105.8/\$	¥105.0/\$	<b>¥111.9/\$</b>				

※2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号2020年3月31日）を適用しております。  
 この結果、前第2四半期累計期間と会計処理が異なります。  
 前年同期比に関しては、新基準と旧基準を比較した参考数値となります。

## ■売上高

**15,710百万円（前年同期比※+2,874百万円、※+22%）**

- ✓ 感光材（+23億円、+32%）：半導体用途、ディスプレイ用途ともに好調が継続。
- ✓ 化成品（+5億円、+10%）：電子材料向けの高純度溶剤などが増加、香料製品も好調に推移。化学品の急激な需要回復による価格高騰により価格反映を実施。ロジスティック（ケミカルタンクターミナル）事業は、国内化学品荷動き量が好調。

## ■営業利益

**2,369百万円（同+1,062百万円、+81%）**

- ✓ 感光材新製造棟の稼働開始、生産能力増強に伴う労務費・償却費、原材料・燃料・物流コスト等の費用増を、増産により吸収し増益。（感光材：+8億円、+90%）
- ✓ 全社的に高付加価値製品の販売の加速に伴い、工場稼働は当初計画より上昇。

## ■経常利益

**2,360百万円（同+1,082百万円、+85%）**

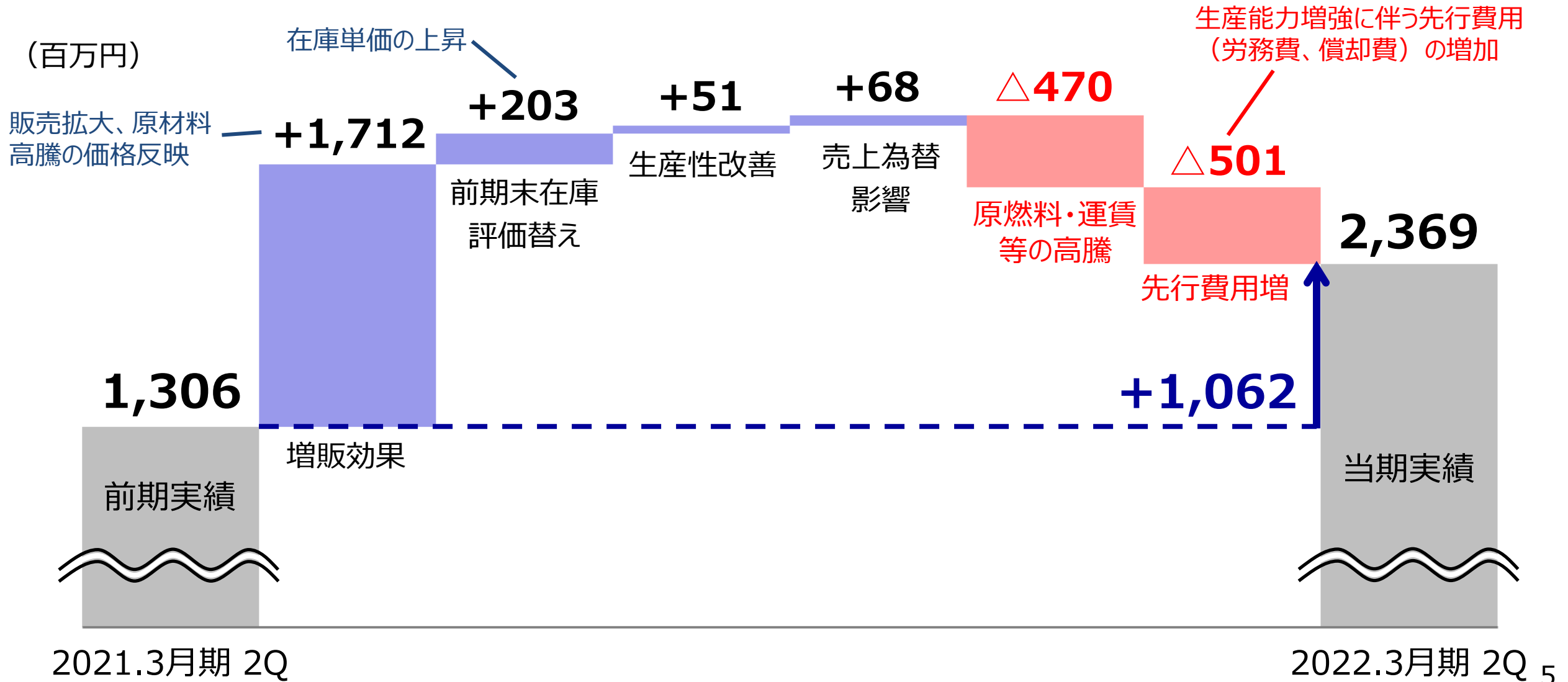
- ✓ 円安により為替差益発生（前年は為替差損発生）

## ■当期純利益

**1,625百万円（同+759百万円、+88%）**

# 営業利益 前年同期比 増減要因

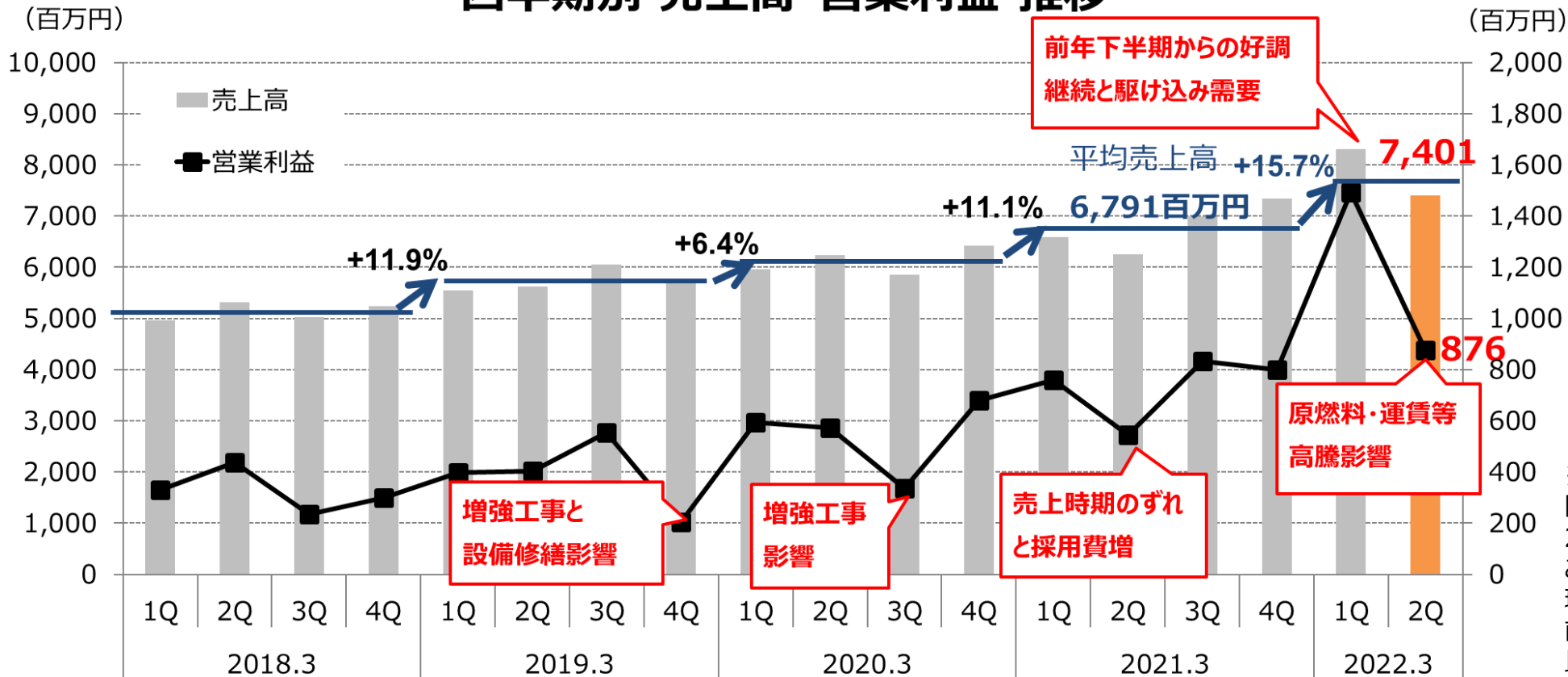
- 販売拡大、原材料の価格高騰に伴う価格反映により、成長投資、原材料・燃料・物流コスト等の費用増を吸収し、増益。



# 四半期別 売上高・営業利益推移

- 上半期の四半期平均売上高は前期67億円から78億円（+16%）と着実に成長し、下半期も同水準を想定。
- 第2四半期の売上高は7,401百万円（前年同期比+1,155百万円、+18%）と好調に推移。
- 営業利益は販売の増加、原材料高騰に伴う価格反映により、876百万円（同+330百万円、+61%）の増益を達成。
- 下半期の営業利益は、原材料・燃料・物流コスト等の高騰リスクあり。

## 四半期別 売上高・営業利益 推移



※2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）を適用しております。この結果、前第2四半期累計期間と会計処理が異なっています。前年同期比に関しては、新基準と旧基準を比較した参考数値となります。

# 2022年3月期 第2四半期 損益計算書

- 売上高は、15,710百万円（※前年同期比+2,874百万円、※+22%）。
- 売上総利益率は、高付加価値製品の増販と工場稼働率向上により3.6ptの改善（22.7%→26.3%）。
- 販売管理費は9%の増加に留め、営業利益は2,369百万円（同+1,062百万円、+81%）の増益。

(百万円)	2021.3月期 2Q	2022.3月期 2Q	増減額	増減率
売上高	※12,835	<b>15,710</b>	※+2,874	※+22.4%
売上原価	9,916	<b>11,577</b>	+1,661	+16.8%
売上総利益	2,919	<b>4,133</b>	+1,213	+41.6%
販売管理費	1,612	<b>1,764</b>	+151	+9.4%
営業利益	1,306	<b>2,369</b>	+1,062	+81.3%
営業外収益	69	<b>59</b>	△9	△14.2%
営業外費用	98	<b>68</b>	△30	△30.5%
経常利益	1,277	<b>2,360</b>	+1,082	+84.7%
特別損益	△16	<b>△12</b>	+3	-
税引前四半期純利益	1,261	<b>2,347</b>	+1,085	+86.1%
法人税等合計	396	<b>721</b>	+325	+82.2%
四半期純利益	865	<b>1,625</b>	+759	+87.8%

[売上総利益 +1,213]  
売上総利益率が3.6pt改善

※2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号2020年3月31日）を適用しております。この結果、前第2四半期累計期間と会計処理が異なります。前年同期比に関しては、新基準と旧基準を比較した参考数値となります。

# 2022年3月期 第2四半期 キャッシュフロー計算書

- 営業CF：4,479百万円 販売拡大による利益増および運転資金改善の効果により営業CF倍増。
- 投資CF：△3,195百万円 生産能力増強投資は継続しているものの、昨年の感光材新製造棟の投資に比べ減少。
- 財務CF：△1,287百万円 CFの改善により借入金を圧縮。

	2021.3月期 2Q (百万円)	2022.3月期 2Q	増減額
<b>営業活動によるCF</b>	2,165	<b>4,479</b>	+2,314
税金等調整前純利益	1,261	<b>2,347</b>	+1,085
減価償却費	1,087	<b>1,273</b>	+186
売掛債権の増減額（+は減少）	581	<b>407</b>	△173
棚卸資産の増減額（+は減少）	△507	△ <b>654</b>	△146
仕入債務の増減額（+は増加）	356	<b>933</b>	+576
その他	△613	<b>172</b>	+785
<b>投資活動によるCF</b>	△4,729	△ <b>3,195</b>	+1,534
フリー・キャッシュフロー	△2,564	<b>1,284</b>	+3,849
<b>財務活動によるCF</b>	2,711	△ <b>1,287</b>	△3,999
現金及び現金同等物に係る換算差額	△16	<b>6</b>	+23
現金及び現金同等物の増減	130	<b>3</b>	△127
現金及び現金同等物の期末残高	3,301	<b>3,385</b>	+84

← 運転資金改善

← 原材料単価上昇  
と数量増



# 2022年3月期 第2四半期 貸借対照表

- 有形固定資産は、新設備の取得をもあるが、既存設備の減価償却も進み、△711百万円の減少。
- 有利子負債は、CFの改善により△1,125百万円の減少。
- 感光材新製造棟の設備未払金の減少など（△2,231百万円）。
- 株主資本は、当期純利益の増加により1,545百万円の増加。
- 自己資本比率は33.6%（前期末比+4.2pt）となり30%を超過。

(百万円)	2021.3月末	2021.9月末	増減額
<b>流動資産</b>	16,998	<b>16,845</b>	△152
現金預金	3,794	<b>3,797</b>	+3
売上債権	5,386	<b>4,979</b>	△407
棚卸資産	6,983	<b>7,638</b>	+654
その他	833	<b>430</b>	△402
<b>固定資産</b>	26,520	<b>25,807</b>	△712
<b>有形固定資産</b>	24,908	<b>24,197</b>	△711
無形固定資産	523	<b>516</b>	△7
投資・その他	1,088	<b>1,094</b>	5
<b>資産合計</b>	43,518	<b>42,652</b>	△865

(百万円)	2021.3月末	2021.9月末	増減額
<b>負債</b>	30,727	<b>28,303</b>	△2,423
仕入債務	3,470	<b>4,403</b>	+933
<b>有利子負債</b>	19,987	<b>18,862</b>	△1,125
その他	7,269	<b>5,037</b>	△2,231
<b>純資産</b>	12,790	<b>14,348</b>	+1,558
株主資本	12,750	<b>14,295</b>	+1,545
評価・換算差額等	40	<b>53</b>	+13
<b>負債・純資産合計</b>	43,518	<b>42,652</b>	△865

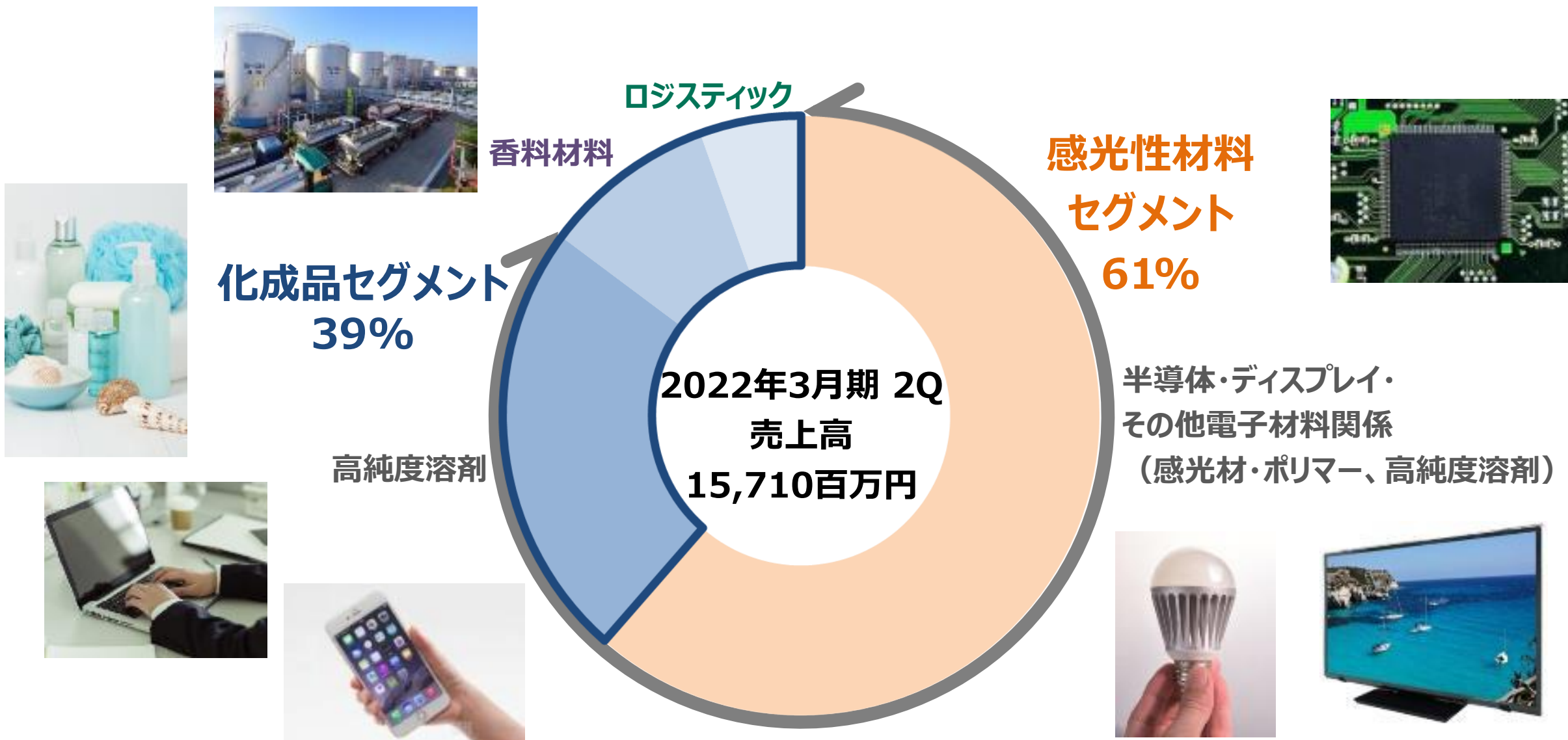
**1. 2022年3月期 第2四半期 決算概要**

**2. 2022年3月期 第2四半期 事業概況**

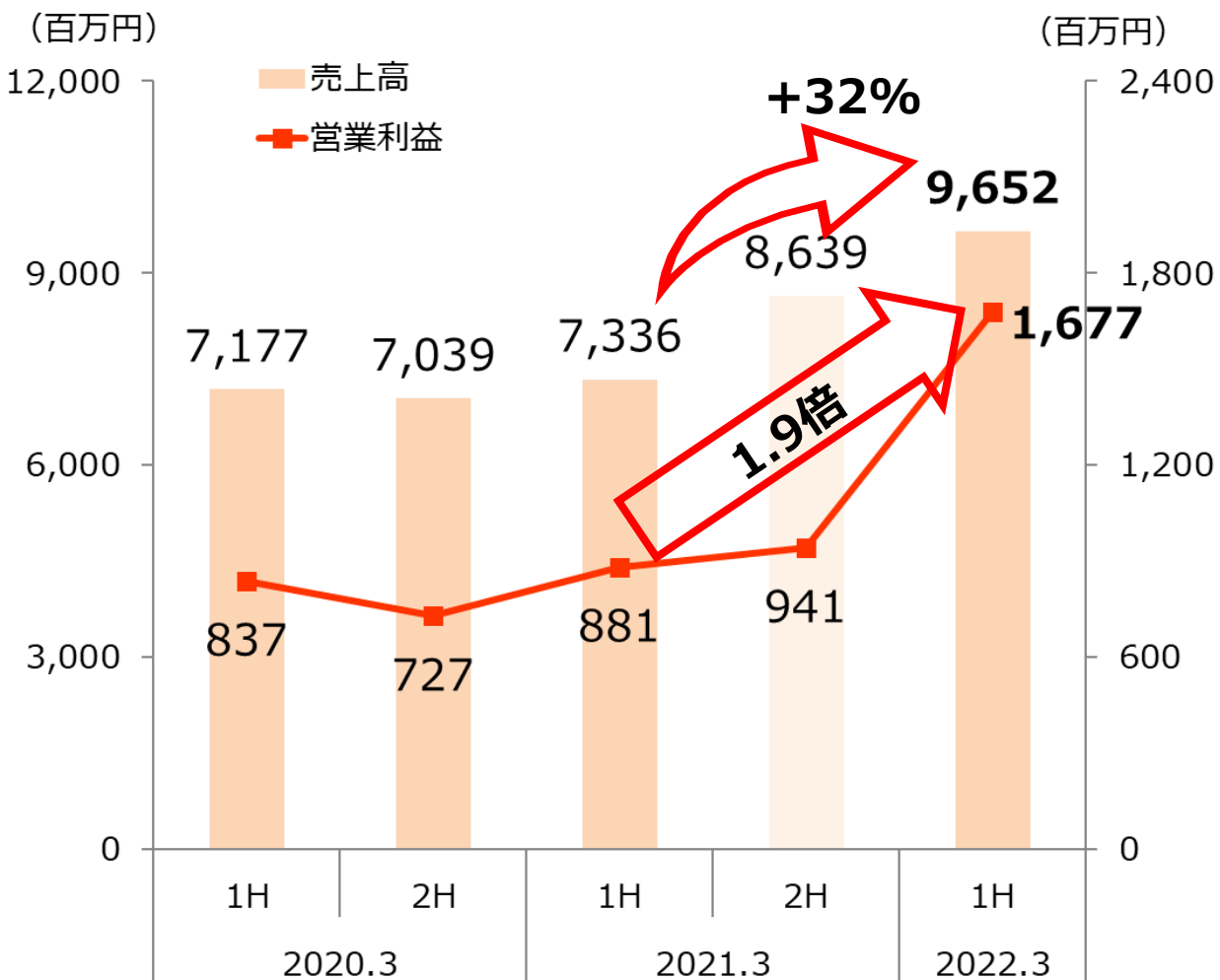
**3. 2022年3月期 業績見通し**

**4. 今後の展望**

- 当社売上実績の8割以上が、半導体・ディスプレイ・その他電子材料関係であり、今後、更なる需要増が見込まれる。



## 売上高・営業利益



## 売上高：9,652百万円

(前年同期比※+2,315百万円、※+32%)

- 半導体用途は前年下半期から好調が継続。
- ディ스플레이用途は前年4Qから好調が継続。

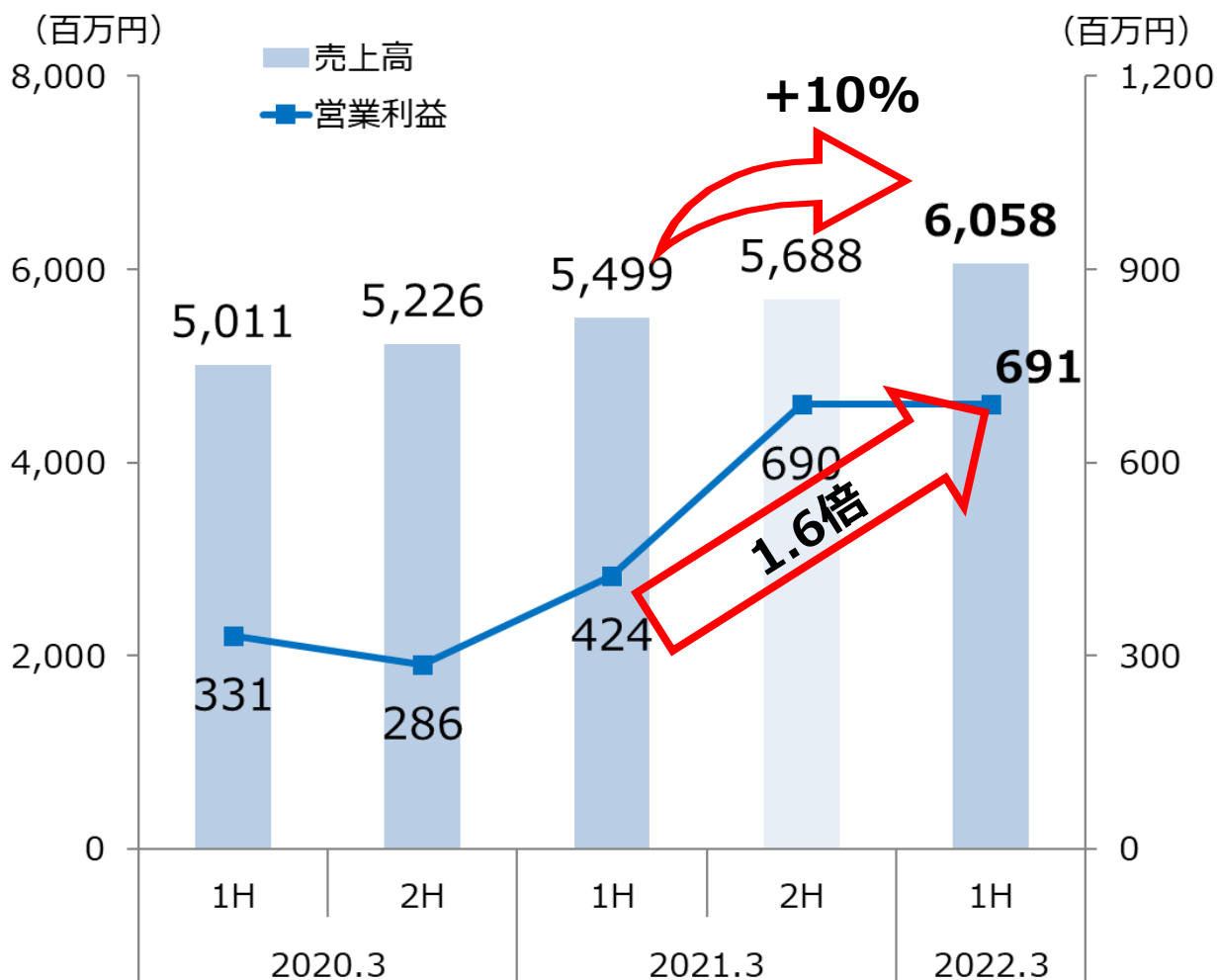
## 営業利益：1,677百万円

(同+795百万円、+90%)

- 先端領域の高付加価値品増加
- 半導体用途、ディスプレイ用途全ての領域での増産により設備能力増強に伴う労務費・償却費の増加を吸収し、増益。

※収益認識会計基準等の適用により、従来の方法に比べ、売上高は207百万円の減少。前年同期比に関しては、新基準と旧基準を比較した参考数値となります。

## 売上高・営業利益



## 売上高：6,058百万円

(前年同期比※+558百万円、※+10%)

- 電子材料向け高純度溶剤は好調継続。
- 香料材料は堅調に推移。
- ロジスティック（ケミカルタンクターミナル）事業は、国内化学品の荷動き量が回復。

## 営業利益：691百万円

(同+266百万円、+63%)

- 高付加価値品の増加
- 需要拡大に伴う増産により増益。
- 原材料高騰に伴う価格反映を実施。

※収益認識会計基準等の適用により、従来の方法に比べ、売上高は321百万円の減少。前年同期比に関しては、新基準と旧基準を比較した参考数値となります。

**1. 2022年3月期 第2四半期 決算概要**

**2. 2022年3月期 第2四半期 事業概況**

**3. 2022年3月期 業績見通し**

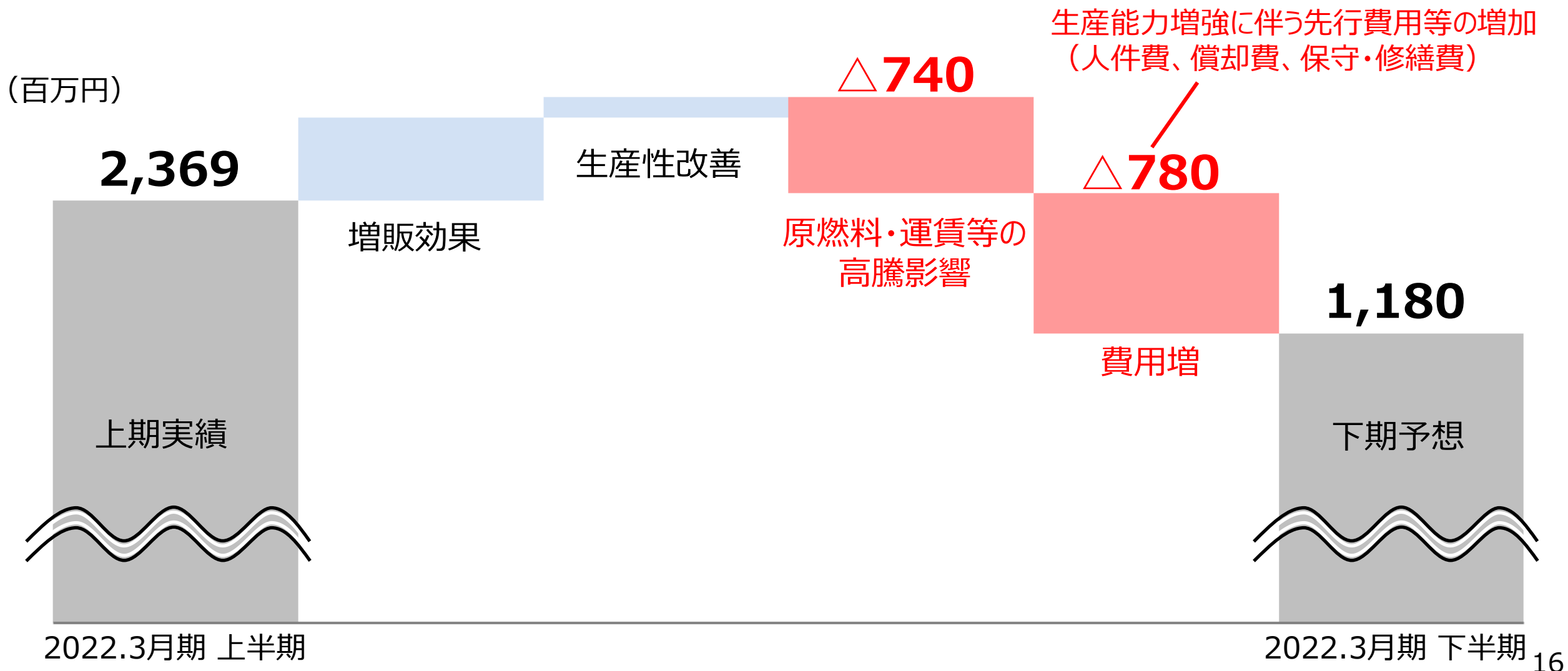
**4. 今後の展望**

- 通期業績公表値に対する上期進捗率は、売上高が約50%、各利益は65%以上。
- 今後も需要は増加傾向。しかし下期は、上期に比べ、原材料・燃料・物流コストの高騰影響の顕著化、増強工事・定期修繕による稼働制約、設備や人員の固定費増を見込んでおり、現時点で業績予想を変更していません。
- 配当は、期初計画通り、中間15円、期末15円を予定。
- 東京証券取引所の新市場区分は、「スタンダード市場」を選択予定。

	2022.3月期 業績予想 (百万円)	2022.3月期 2Q 実績	進捗率
売上高	30,000	15,710	<b>52.4%</b>
営業利益	3,550	2,369	<b>66.7%</b>
経常利益	3,400	2,360	<b>69.4%</b>
当期（四半期）純利益	2,400	1,625	<b>67.7%</b>
1株当たり当期（四半期）純利益	302.38円	204.79円	
為替レート（USD）	¥105/\$	¥111.9/\$	

# 2022年3月期 下半期の増加費用

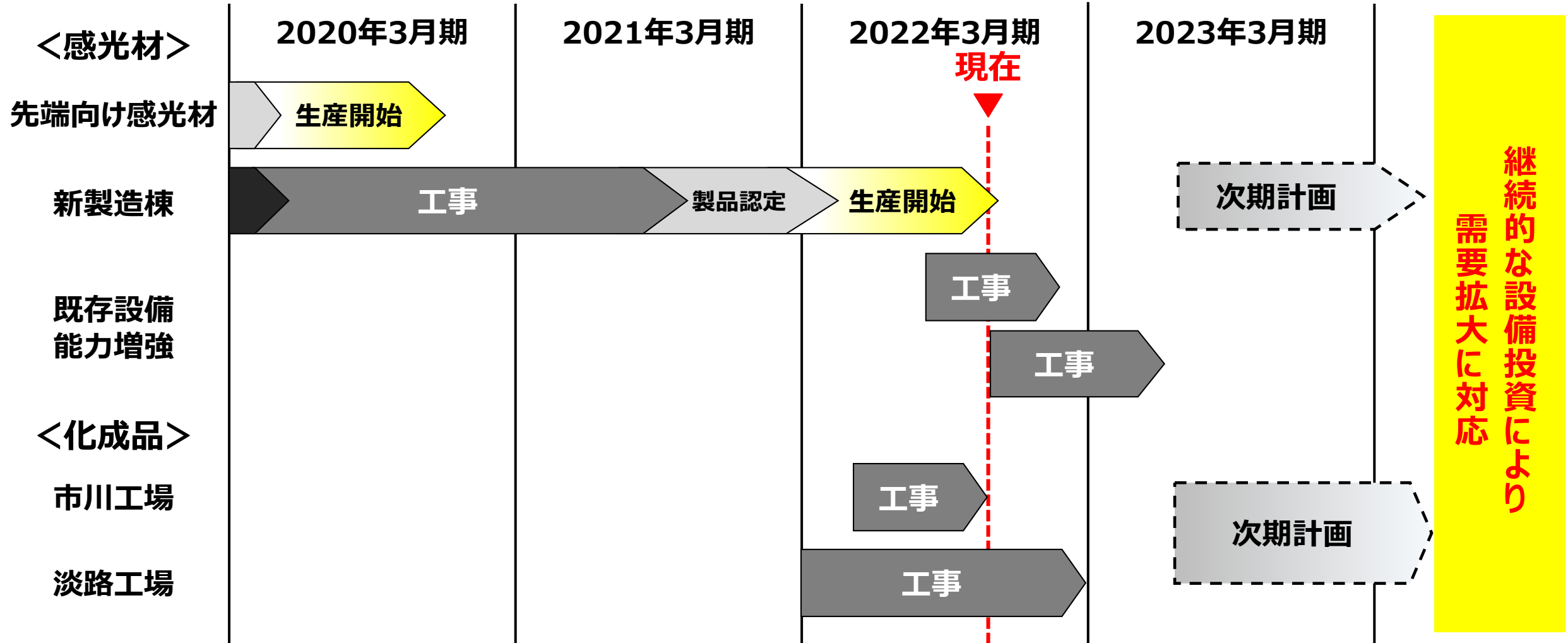
- 下期は、増販効果はあるものの、原材料・燃料・物流コスト等の価格上昇に加え、工事・定期修繕、人員増に伴う費用は増加し、利益は減少する見込み。





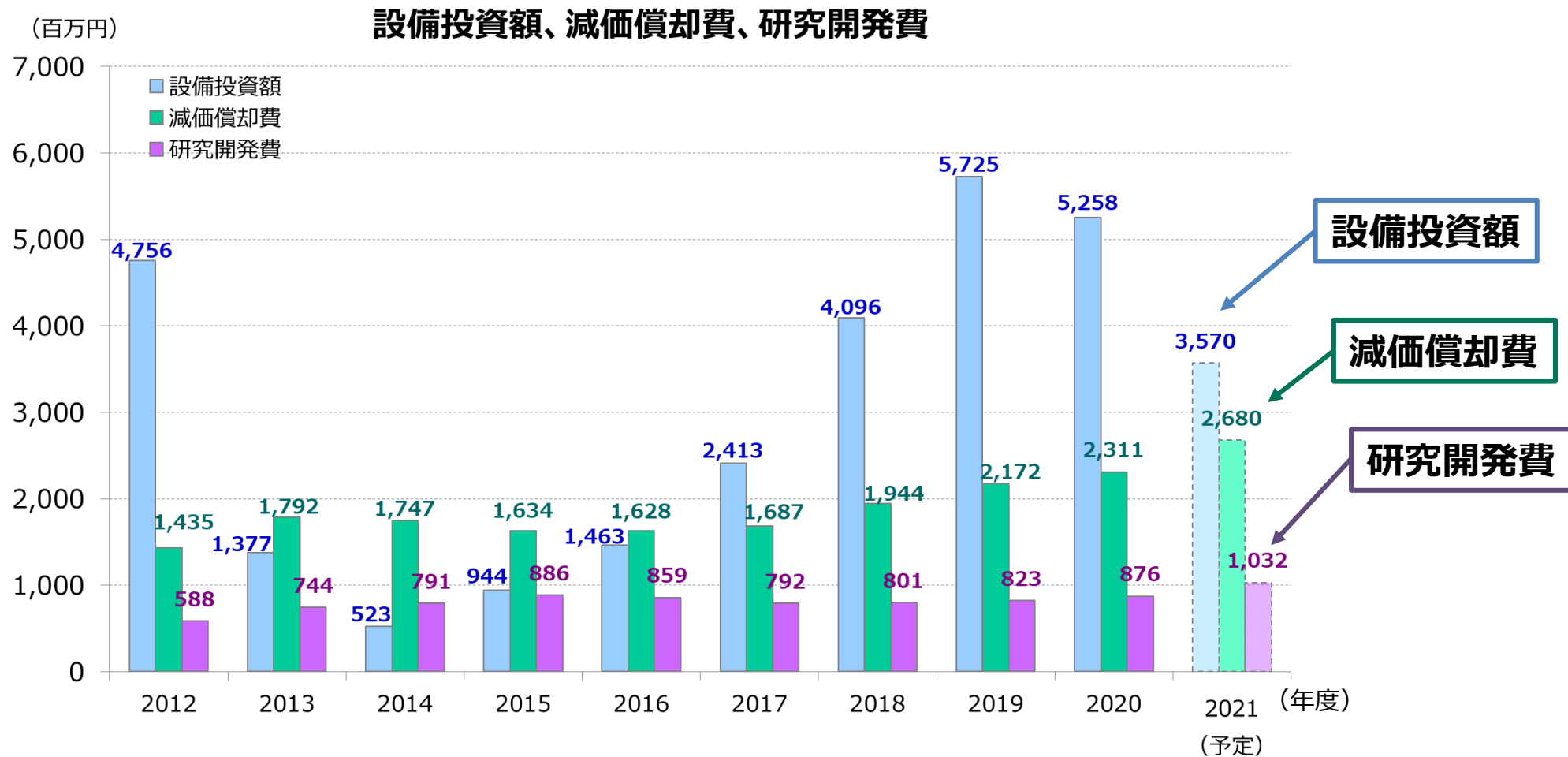
# 各工場の生産能力増強

- ・感光材新製造棟は今期から生産開始。
- ・感光材/化成品共に、既存設備の能力増強も継続実施。



# 設備投資・減価償却・研究開発の長期推移

- 需要拡大に伴い、2017年度から生産能力を継続的に生産能力を増強。
- 2021年度の設備投資は約35億円を計画。来期以降も継続予定。
- 今年、研究開発は、生産性や品質向上に向けた製造技術力（分析能力、工程開発、試作ライン）の強化+1.5億円の投資を順次実施。今後、継続的に増強予定。



**1. 2022年3月期 第2四半期 決算概要**

**2. 2022年3月期 第2四半期 事業概況**

**3. 2022年3月期 業績見通し**

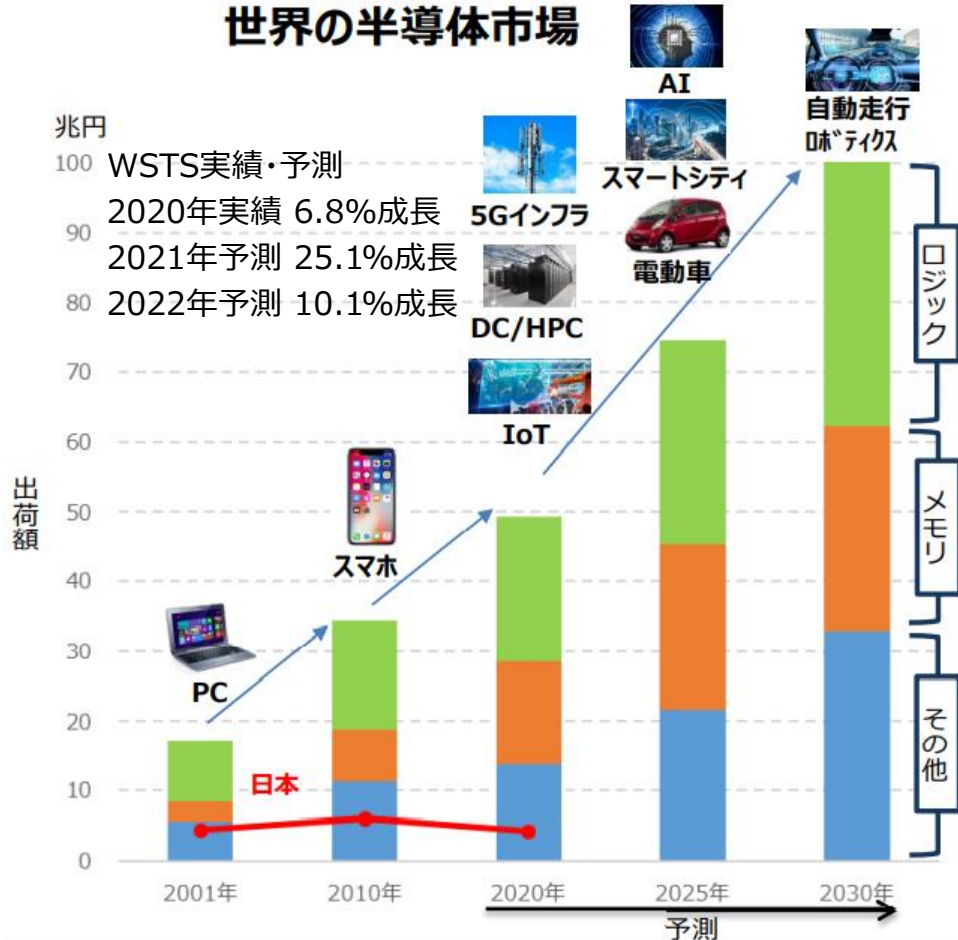
**4. 今後の展望**

# 半導体市場および技術の推移と長期予測

- 2020年→2030年、DXの進展により、半導体市場は倍増の見込み。
- 現在、5nmまで量産化され、今後も微細化が進展する見込み。
- 微細化の進展に合わせ、高純度溶剤、高純度感光材の需要は拡大。
- 当社で70年間培った溶剤/感光材の製造技術を更に進化させ、今後の業界の進化を支える。

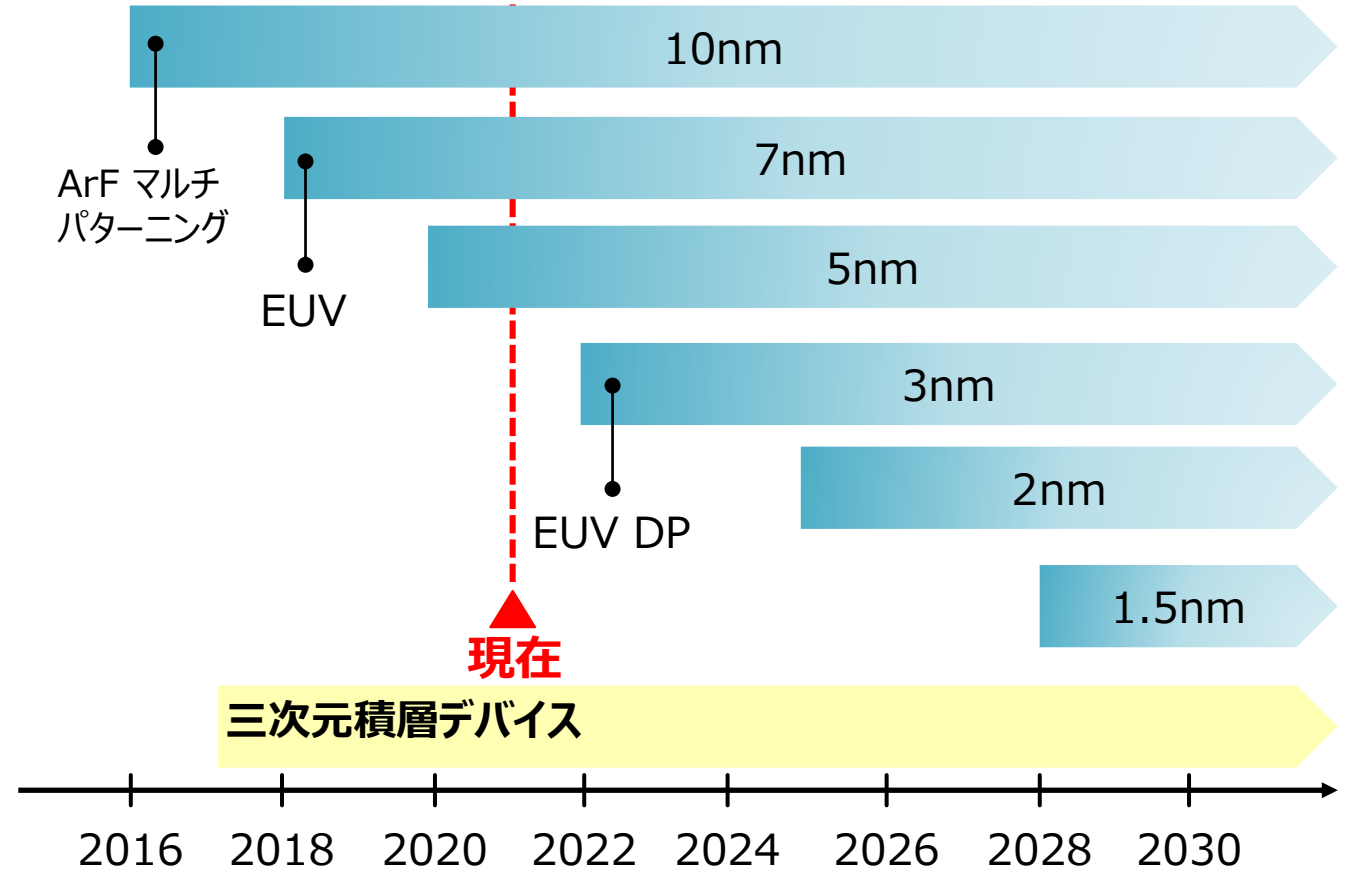
**2021年 半導体市場成長率の加速と需要急増 (WSTS)**  
 8.4% (12月) → 19.7% (6月) → 25.1% (8月)

## 世界の半導体市場



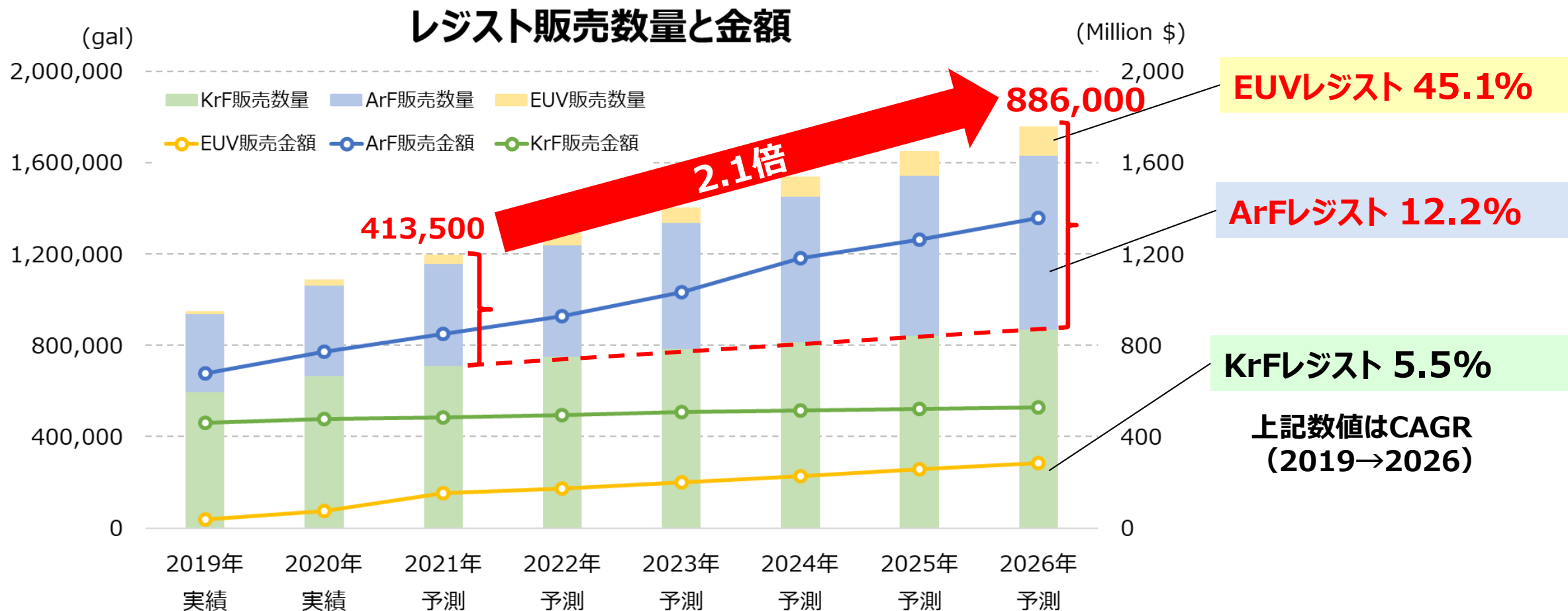
出所：経済産業省 半導体・デジタル産業戦略検討会議資料より抜粋

## 半導体技術ロードマップ

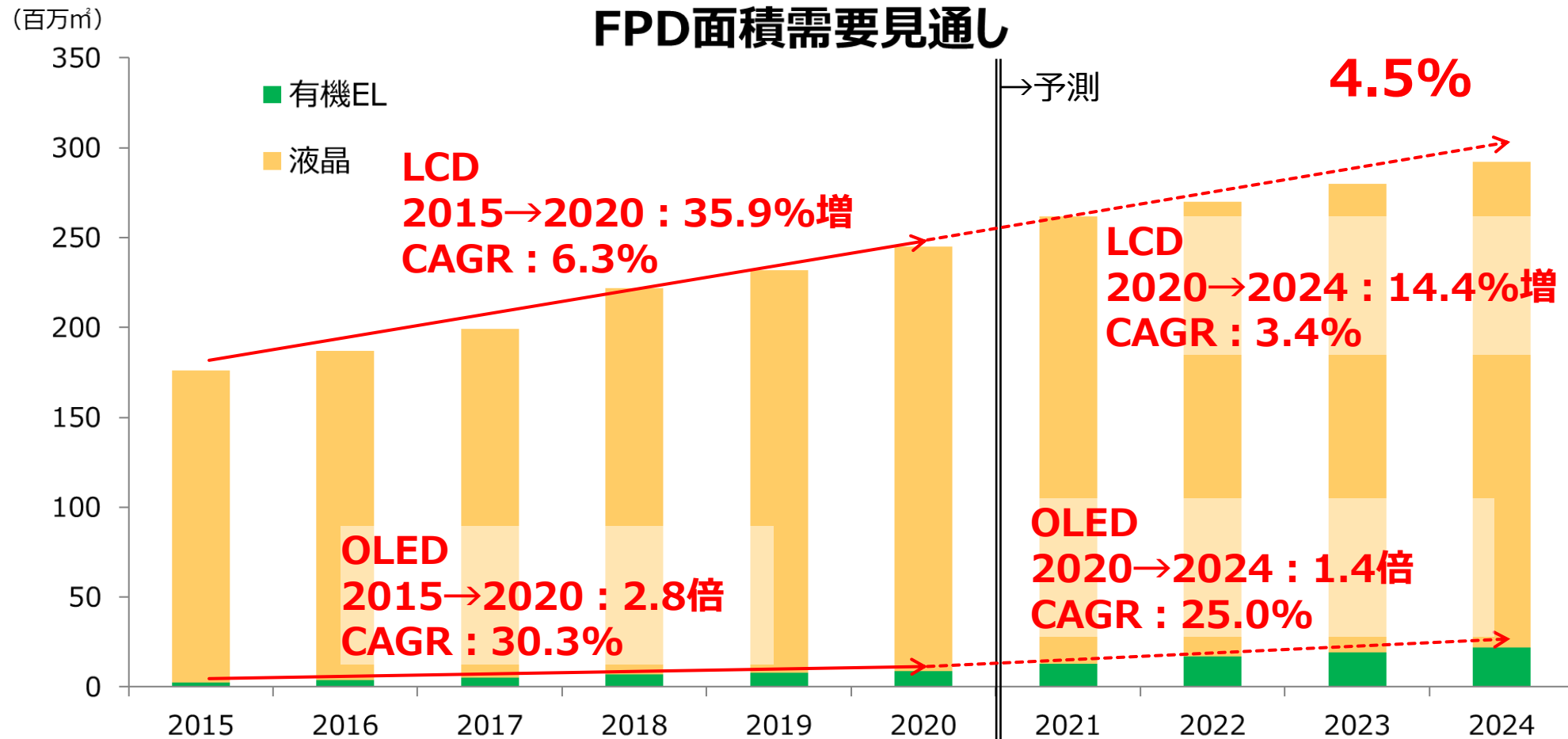


出所：IRDS2020より当社作成

- ArF、EUVレジストの需要量は、2021年～2026年に掛けて、最低限2.1倍に拡大見込み。
- 足元の年成長率は過去市場予測の年平均成長率の約2倍。



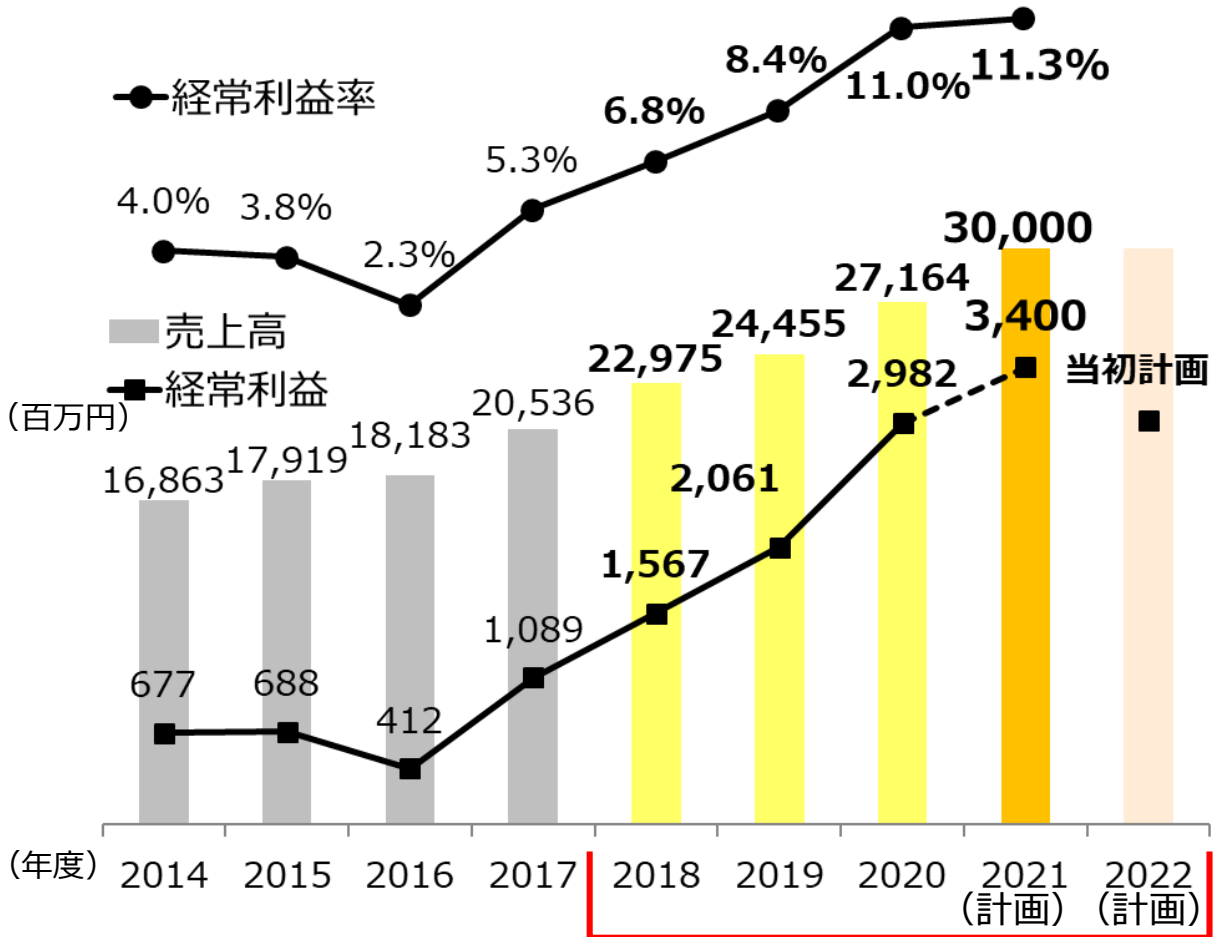
- FPD（フラットパネルディスプレイ）市場は、年率4.5%の緩やかな成長が継続。
- 大型TVやスマートフォンにおける有機EL搭載機種種の増加や4K8K等の高精細品の割合が高まっていく見込みから高純度溶剤/感光材は需要拡大見込み。



出所：IHS資料より当社作成



- 中期経営計画「TGC300：2023年3月期 売上高300億円、経常利益30億円以上、経常利益率10%以上」は、2022年3月期に、**1年前倒して達成見込み**→**当初想定よりも需要拡大が加速**。
- 今後の需要急増を見据え、千葉工場隣接地を取得。（2021年10月1日プレスリリース）
- 足元の状況を踏まえ、次期中期経営計画を現在策定中。



中期経営計画

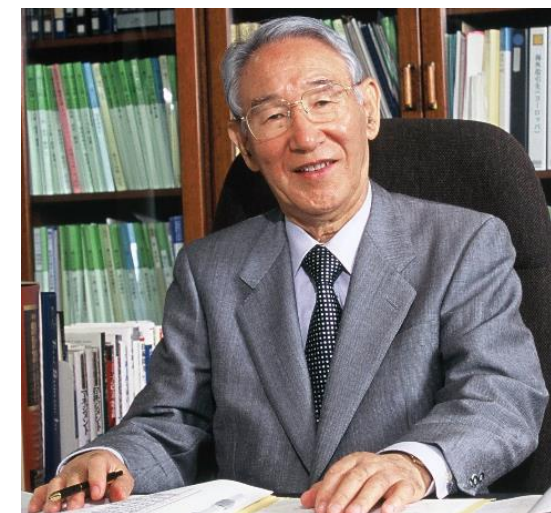
千葉工場周辺図



当社事業用地

# 当社の発展を支えてきたアイデンティティ

- 1.時代に必要とされるものを作る
- 2.他社が作れないものを作る（グローバルニッチトップ）
- 3.研究開発と技術を核とする
- 4.あきらめず、愚直に、誠実にやる



創業者 木村 正輝

**社会変革を支える高機能材料の需要拡大に応えるため、  
生産能力増強を継続し、企業価値向上に、全社一丸で取り組んで参ります。  
どうか皆様の引き続きのご理解・ご支援をよろしくお願い申し上げます。**



独創的な視点で世界へ

Individual Development, to the global Chemical

# 東洋合成工業株式会社

- (見通しに関する注意事項)
- 本資料の業績予想は、現時点において見積もられた見通しであり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。
- 従いまして、実際の業績は、様々な要因やリスクにより、この業績予想とは大きく異なる結果となる可能性があり、いかなる確約や保証を行うものではありません。